

〈革命成功当日〉

第2回全ロシア=ソヴィエト会議
1917.11/8 9:00 pm ~ 11/9 5:15 am **再開**

11/8 9:00 pm
「我々はこれから社会主義の建設に取り組むであろう！」

平和に
さんせーいっ！
(全会一致)

すべての交戦国の人民と「公正かつ民主主義的な」「無併合・無賠償に基づく」ただちに交渉を開始するその交渉が公正に実施され過去締結されたすべての今後、秘密外交は一切廃止されなければならない！

土地に
異議な〜しっ！
(ほぼ全会一致)

1. 地主的土地所有は、無
2. すべての大土地私有地憲法制定会議までソヴ
4. 土地私有の永久廃止、
5. 普通の自営農民とコサ

1票のみ 反対

1917.11/8 - 1946
人民委員会議
ボルシェヴィキ：100%
ユダヤ系：90%

苦節五十年！やつとここまで来たか！
名前は「議長」「だが」「首相」にあたるんだ。
だが、まだまだこんなモンじゃないぞ！

首相
人民委員会議長
レーニン
1917.11/8 - 1924.1/21

内相
内務人民委員
アレクセイ=イヴァノヴィッチ
ルイコフ
1917

外相
外務人民委員
トロツキー
1917.11/8 - 1918.3/13

本来「大臣」と呼ぶところを私が「人民委員」と名づけたのだ！
「大臣」では、帝政ロシア時代を彷彿とさせてイメージ悪いからな！

1917年11月8日

冬宮(現エリミタージュ美術館)

臨時政府閣僚18名
冬宮制圧
11/8 2:10 am
「我々は暴力に屈した。流血を避けるため降伏しよう」

に関する布告
政府に対して、
講和、すなわち、
く即時講和」について
ことを提議する！
れるためには、
秘密条約は公表・廃棄され、
止されなければならない！

に関する布告
賠償かつ即時に廃止される。
は、その付属施設まですべて含めて
イエト等の管理に移される。
すべての土地は全人民の資産とする。
ックの土地は没収されない。

全党派連立
革命はみんなで
やったんじゃない！
民主的にやろ！
エスエル左派

No!
タメだ！
せつなく謀略を使って
やつらが退場するように
仕向けてやつたのに！

民族人民委員
スターリン
1917.11/8 - ???
あつそ！
短いつきあい
だつたね
はいばい
けけけ！
計算ど〜り
自分から出て
行ったわい！

入閣拒否
C=C=C=C

第2回 全ロシア＝ソヴィエト会議は、夜通しで審議を重ねていたため、早朝(6:00 am)、いったん休会します。

この間にレーニンもひとときの休息をとり、その日の夜(9:00 pm)には会議は再開されました。(A-2)

ところで、革命を成功させること自体は、条件とタイミングさえ合えば、じつはそれほど難しいことではありません。(*01)

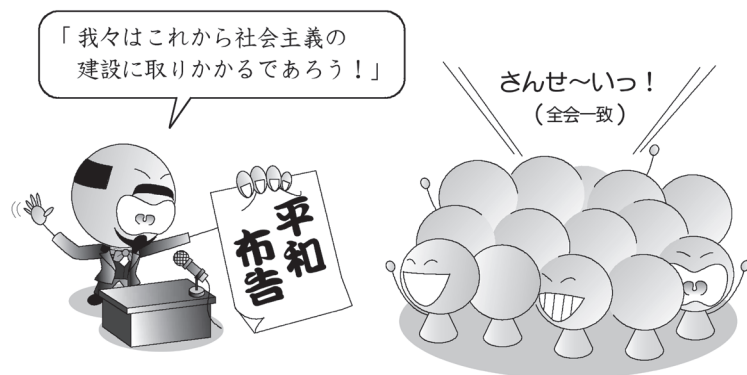
しかし。

問題はその後です。

つぎに新政府を樹立しなければなりません、これが革命を成功させること以上に困難を伴います。

歴史上、旧政府を倒すことに成功しながら、新政府の樹立に失敗して崩壊してしまった革命は枚挙にいとまがありません。

当時のペトログラード市民が「どうせ3日も保つまい!」と言ったのも、あながち故なきことではなかったのです。



(*01) 機が熟していさえすれば、革命指導者にたいした才がなくても革命は成功します。逆に、熟していなければ、どんなにすぐれた革命家が革命を指導しようとも失敗します。この点では、マルクスの「唯物弁証法」も「真理の一側面」を表しています。しかし、あくまでも「一側面」であって「すべて」ではありません。それをベースに理論が構築されてしまったことにマルクスの致命的誤りがありました。

レーニンは、

「我々はこれから社会主義の建設に取り組むであろう!」(A-1)

…と宣言し、矢継ぎ早に新政府としての「布告」を発します。

それこそが、あの有名な、

- ・対外向けに発布された『**平和に関する布告**』(A/B-3)と、
- ・国内向けに発布された『**土地に関する布告**』(B/C-3)です。

まず、『平和に関する布告』では、

「無併合・無賠償に基づく即時講和」と

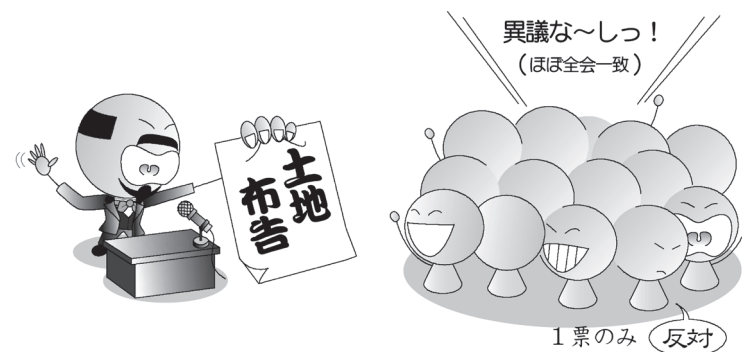
「過去における秘密外交の公表・破棄と、将来における秘密外交の禁止」

…が叫ばれ、全会一致で可決されました。(A/B-2)

しかし。

「秘密外交」というものは、たしかに褒められたものではありませんが、「外交」は「きれいごと」では済みませんから、外交をする以上、どうしても必要となるものです。

いわば「必要悪」です。(*02)



(*02) 道徳的または法的には、たしかに「悪」であったとしても、その存在がなければ、社会が成り立たない、または、それなど比較にならない巨悪が蔓延してしまうと仮定されるもの。よく「必要悪」の例として取り上げられるものには、「戦争」「核爆弾」「死刑制度」などスケールの大きなものから、「暴力団」「ウソ」など小さなものまでさまざまあります。